

第151期

中間事業報告書

平成15年4月1日から平成15年9月30日まで



株式
会社

神戸製鋼所



代表取締役社長

水越 浩士

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、当社第151期の上半期を終了いたしましたので、ここに営業の概況をご報告申し上げます。

当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、中国を始めとしたアジアならびに米国向け輸出が増加し、また、民間設備投資に一部改善の兆しがあるなど、景気持ち直しに向けた動きが見られたものの、回復を実感するには至りませんでした。

このような状況の中、当社は、引き続き総力をあげてコスト削減に向けた諸施策を実行するとともに、収益確保に向けて懸命に取り組んでまいりました。

当上半期の連結決算につきましては、売上高は、都市ごみ処理設備の需要低迷による受注減少があったものの、鋼材輸出がアジア向けを中心に高水準で推移したことに加え、建設機械の中国における需要が拡大したことから、前年同期比2%増の5,870億円となりました。また、経常利益は175億円となり、税引き後の中間純利益は89億円となりました。

一方、単独決算につきましては、売上高は前年同期並みの3,870億円、経常利益は81億円となり、税引き後の中間純利益は51億円となりました。

このような収益状況ではありますが、当期の中間配当につきましては、その実施を見送らせていただきました。株主の皆様には、誠に申し訳なく存じますが、何卒ご理解賜わりますようお願い申し上げます。なお、本年6月の株主総会にてご承認いただきました資本準備金の取崩しにより、欠損金は一掃いたしました。

今後の課題 - 『2003-2005年度連結中期経営計画』

当社は、本年6月、『2003-2005年度連結中期経営計画』を策定いたしました。この経営計画では、「素材事業、電力卸供給事業および機械事業で社会に貢献し、その製品・サービス・技術が世の中から高く評価される存在であること。」を当社グループのビジョンとして掲げ、2005年度(平成17年度)を最終年度として次の数値目標を設定し、その達成に向けて重点施策を推進していくことといたしました。

● 主な数値目標

経常利益 800億円

ROA 6%

外部負債残高 6,400億円(2,500億円の削減)

● 重点施策

「オンリーワン・ナンバーワン」製品・サービス・技術を創出し続け、全社売上高に占める特長ある製品の比率を現在の30%から40%超にまで高める。

既存の提携の深化を図り実効をあげていくとともに、コア事業の更なる収益力強化に資する提携等を推進する。

市場のグローバル化に対応した供給体制を構築する。

3年間で400億円のコスト削減と1,000億円の設備投資を実施する(いずれも単体ベース)。

コーポレートガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、社会と調和した環境経営等を推進する。

当社グループは、この中期経営計画を着実に推進し、強固な経営基盤を構築してまいり所存であります。すでに、当上半期において、鋼材メーカーとして初めての自動車シート部品用高張力鋼板(ハイテン)の量産納入の開始、自動車用アルミ部品の北米製造拠点の設立、溶接材料や建設機械における海外企業との提携の推進、省エネ・高効率機械製品の上市と更なる開発を進めてまいりました。今後も本計画の取り組みを一層強化し、新たな展開を図ってまいりたいと存じます。

今後のわが国経済は、景気持ち直しに向けた動きが見られるものの、自律的回復軌道に入ったとはいえない状況にあります。

このような状況の中、当社は、事業競争力の向上を図るとともに、全社的な収益構造の改革を推し進め、本年度期末における復配を実現すべく、全力をあげて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成15年12月

営業の概況

鉄鋼関連事業

鉄鋼需要は、国内は建設向けが低調であったものの、自動車等製造業向けが旺盛な外需および民間設備投資の改善を背景に堅調に推移しました。また、輸出もアジアを中心に高水準で推移したことから、全国粗鋼生産は前年同期を上回りました。一方、鋼材市況は、内外での需給が逼迫していることから着実に改善が進んでおります。

溶接材料については、国内は建築分野での低迷を受け、需要環境は総じて厳しい状況となりましたが、輸出はアジア向けを中心に堅調に推移しました。

このような状況の中、総力をあげた営業活動や発電所(1号機)の安定操業に取り組んだ結果、当事業の売上高は前年同期比5%増の2,651億円となりました。

なお、電力卸供給事業については、発電所2号機が来年4月の営業運転開始に向けて、本年7月より試運転を行っております。同2号機の稼働後は、1号機と合わせ140万キロワット体制が整う予定です。

アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品の販売量は、缶材は冷夏や発泡酒増税に伴う需要の減少が見られたものの、アルミボトル缶の採用拡大による増加により前年同期比微増となりました。また、自動車向け板材、半導体・液晶製造装置向けアルミ厚板、ハードディスク用基板等の増加や、押出材が自動車向けを中心に堅調に推移したことから、全体では前年同期を上回りました。

一方、銅圧延品の販売量は、電子材料用板条は前年同期並みで推移したものの、空調用銅管が国内向けの増加により前年同期を上回ったことから、全体では前年同期を上回りました。

この結果、当事業の製品売上高は増加したものの、アルミ地金関連事業撤退の影響により、当事業全体の売上高は前年同期比4%減の1,228億円となりました。

機械関連事業

国内受注は、都市ごみ処理設備需要が低迷したものの、民間設備投資の改善による回転機やタイヤ機械、環境対策関連設備の受注拡大により、前年同期比22%増の634億円となりました。海外向けは、回転機や中国向けタイヤ機械が堅調に推移したことから、前年同期比6%増の158億円となりました。

この結果、当事業全体の受注高は前年同期比18%増の792億円となり、当上半期末の受注残高は1,476億円となりました。

一方、当事業の売上高は、都市ごみ処理設備の受注減の影響により、前年同期比15%減の834億円となりました。

建設機械関連事業

国内の建設機械市場は、買い替え需要回復の動きに伴い、ようやく底打ち感が見えてきました。海外需要は、急速にインフラ整備を推進する中国での需要拡大および堅調な東南アジアに加え、北米も緩やかな回復基調にあります。

このような状況の中、好調な中国に加えて国内販売も大幅に拡大したことから、当事業の売上高は前年同期比27%増の932億円となりました。

不動産関連事業

不動産業界においては、住宅ローン減税制度適用の駆け込み需要の発生等により、新設住宅着工戸数は前年同期比微増と4年ぶりに前年度を上回りました。

このような状況の中、当社は、更に品質の高い商品の提供と顧客サービスの向上に努めながら、積極的な営業活動を展開しました。この結果、当事業の売上高は前年同期比31%増の206億円となりました。

トピックス

北米向け自動車シート骨格用に100キロ超ハイテンを納入

当社は、鋼材メーカーとして初めて北米自動車シートメーカー向けに100キロ超ハイテン(高張力鋼板)材の量産納入を開始しました。このシート部品は、トヨタ自動車株式会社が米国で生産している「シエナ(SIENNA)」に搭載されます。

自動車業界は、環境対応と安全性向上に積極的に取り組み、なかでも燃費向上によるCO₂排出削減を図るため、車両の軽量化が重要な課題になっています。自動車シート部品に100キロ超ハイテンを使用することによって、従来に比べて10~20%の軽量化を実現しました。

自動車軽量化の手段としてますますハイテン化が進むものと思われませんが、「ハイテンの神戸」と評価をいただいている当社は、今後更にグローバルな視野に立った超ハイテンの開発、量産化を進めていきます。



ハイテンが採用されたシート部品
(アジャスター部分)

米国でアルミ鍛造の合弁会社を設立

当社と三井物産株式会社、豊田通商株式会社の3社は、米国ケンタッキー州ボーリンググリーン市に自動車サスペンション用アルミ鍛造品の製造・販売を行なう合弁会社「コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ社(Kobe Aluminum Automotive Products LLC)」を設立しました。

資本金は1,400万ドルで、当社60%、三井物産25%、豊田通商15%が出資し、2005年(平成17年)6月操業開始の予定です。



コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ社の完成予想図

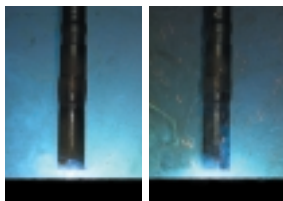
自動車業界は、環境規制をクリアするため車両の軽量化を進め、サスペンション部品をアルミ化していますが、より軽量化できる鍛造品の採用拡大が見込まれます。

溶接材料の海外生産を拡大

溶接材料の世界シェアの拡大を目指して当社は、海外生産の拡充を強化していきます。

すでに昨年、韓国で設備能力を30%増強、タイでもソリッドワイヤ設備を25%増強中です。また、国内の3倍以上の需要が見込まれる中国では、本年9月に合弁会社「唐山神鋼溶接材料有限公司」が操業を開始しています。一方、高級品種での競争力強化を踏まえた欧米への対応として、現地生産も検討中です。そして現在の世界シェア(推定7%)を更に引き上げることを目指します。

国内では、溶接材料の生産集約を行なうことで本年10月、ジェイ エフ イースチール(JFEスチール)株式会社と共同出資によるコウベ・ジェイ エフ イー ウェルディング(KOBE・JFEウェルディング)株式会社を設立しました。これにより製造コスト・材料購入費・物流コストの低減が期待できます。



ソリッドワイヤのミグ溶接でのスパッタ発生状況
(左:新開発の銅めっきなしワイヤ 右:従来の銅めっきワイヤ)

木質系・農業系バイオマスのガス化発電技術で提携

当社は、木質系・農業系バイオマスのガス化発電技術分野において、商業規模で数多くの実績を持つ欧米メーカーと市場開拓へ向けた提携を行いました。

京都議定書に基づく地球温暖化ガス削減への取り組み、バイオマス・ニッポン総合戦略の策定、また、新エネルギー法の施行などにより、日本でもバイオマス発電に対する市場の期待が急速に高まっています。

今回の提携によって、木質系・農業系バイオマスからのエネルギー利用を検討するお客さまのニーズに対して、豊富な商業実績に裏付けされた信頼性の高いプロセスを提供します。

高効率・省エネのスクリュコンプレッサをラインナップ

当社と子会社であるコベルコ・コンプレッサ株式会社は、省エネ効果の高い油冷式スクリュコンプレッサ「コベライアン」の新機種と、省エネロジックを採用したオイルフリースクリュコンプレッサ「エメロード」をラインナップしました。

「コベライアン」は、昨秋に販売を開始し市場から高い評価を受けるとともに、昨年度、省エネ機器として日本機械工業連合会会長賞を受賞しました。



油冷式スクリュコンプレッサ
「コベライアン」

そして今夏より、省エネ効率をさらに高めた高性能新商品4機種を上市しました。工場の省エネには欠かせない存在として高い評価を得ています。

「エメロード」は、省エネロジックの採用により、空気圧縮時の無駄な昇圧運転をおさえるとともに、冷却ファンのエネルギーロスも低減し効率的な運転を実現しました。オイルフリーの特性を活かして半導体・液晶工場や食品関係などで好評を得ています。

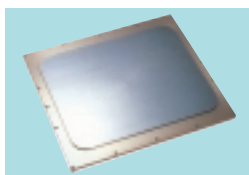
液晶ディスプレイ配線用Al-Nd(アルミ・ネオジウム)合金材の量産拡大

当社と子会社である株式会社コベルコ科研は、液晶ディスプレイ配線用Al合金材料で世界の80%のシェアを有していますが、その主力製品であるAl-Nd合金の更なる量産拡大を進めています。

液晶ディスプレイは、今後の家庭用テレビの主流として爆発的な市場規模の拡大が予測されています。コベルコ科研では、液晶ディスプレイの微細薄膜配線を形成する際の原料となるスパッタリングターゲット(Al合金板材)を製造していますが、液晶テレビ量産時の重要な課題となる大型ターゲット材の量産技術を確立しました。

一方、当社は、ドライエッチングプロセスやダイレクトコンタクト構造などの新しいニーズに対応した新規Al合金ターゲットの開発にも成功しています。

今後、更に発展するエレクトロニクス分野でも、アルミを始めとした当社素材技術を活かした新製品開発を進めていきます。



Al-Ndスパッタリングターゲット
(サイズ:最大幅170cm×140cm、厚さ1cm程度)

連結財務諸表等

連結貸借対照表の要旨 (平成15年9月30日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
(資産の部)	(1,878,355)	(負債の部)	(1,535,404)
流動資産	647,348	流動負債	771,104
現金及び預金	89,025	支払手形及び買掛金	289,532
受取手形及び売掛金	253,386	短期借入金	268,836
棚卸資産	231,725	一年内償還社債	78,876
その他	74,737	その他	133,859
貸倒引当金	1,526	固定負債	764,299
固定資産	1,231,006	社 債	262,479
有形固定資産	960,303	長期借入金	333,289
建物及び構築物	293,829	その他	168,531
機械装置及び運搬具	383,406	(少数株主持分)	(29,434)
その他	283,068	少数株主持分	29,434
無形固定資産	16,941	(資本の部)	(313,516)
投資その他の資産	253,761	資 本 金	218,163
投資有価証券	109,675	資本剰余金	67,975
その他	153,425	利益剰余金	20,820
貸倒引当金	9,339	土地再評価差額金	3,253
		その他有価証券評価差額金	12,066
		為替換算調整勘定	7,745
		自己株式	1,017
資産合計	1,878,355	負債、少数株主持分及び資本合計	1,878,355

(金額は百万円未満の端数を切り捨てております。)

連結損益計算書の要旨 (平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

科 目	金 額
	百万円
売 上 高	587,046
売 上 原 価	483,058
販売費及び一般管理費	61,960
営 業 利 益	42,027
営 業 外 収 益	16,342
営 業 外 費 用	40,849
経 常 利 益	17,520
特 別 利 益	9,007
特 別 損 失	9,351
税金等調整前中間純利益	17,176
法人税、住民税及び事業税	2,953 (減算)
法人税等調整額	4,158 (減算)
少数株主利益	1,067 (減算)
中 間 純 利 益	8,997

(金額は百万円未満の端数を切り捨てております。)

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,737
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,819
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,051
現金及び現金同等物に係る換算差額	994
現金及び現金同等物の増減額	5,860
現金及び現金同等物の期首残高	81,809
連結範囲の変動による増減額	695
現金及び現金同等物の期末残高	88,365

(金額は百万円未満の端数を切り捨てております。)

連結業績の推移

(単位：億円)

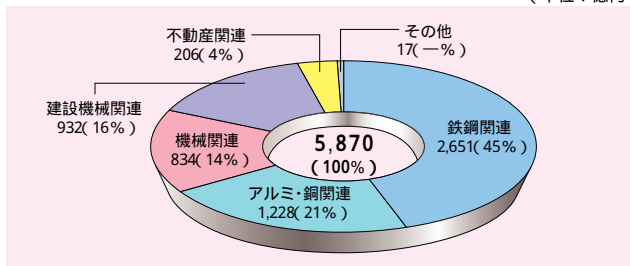
区 分	平成14 / 上	平成14 / 下	平成15 / 上
売 上 高	5,773	6,273	5,870
経 常 利 益	100	253	175
当 期 純 利 益	52	35	89
1株当たり当期純利益	1円83銭	1円21銭	3円3銭
総 資 産	19,275	19,026	18,783
純 資 産	2,852	2,931	3,135

(注)1. 印は損失を示しております。

2. 1株当たり当期純利益は、期中平均株式数に基づき算出しております。

セグメント別売上高 (平成15年度上半期)

(単位：億円)



(注)「その他」には、その他の事業とセグメント間の内部売上高等の消去額が含まれております。

連結子会社(151社)(平成15年9月30日現在)

鉄鋼関連事業 41社：日本高周波鋼業(株)、神鋼特殊鋼管(株)、神鋼建材工業(株)、神鋼神戸発電(株)他

アルミ・鋼関連事業 23社：神鋼リードミック(株)、サン・アルミニウム工業(株)、神鋼ノース(株)、神鋼メタルプロダクツ(株)他

機械関連事業 28社：神鋼バンテック(株)、神鋼造機(株)、コベルコ・コンプレッサ(株)他
(注)神鋼バンテック(株)は、平成15年10月1日付で当社の環境ビジネス部門と事業統合し、(株)神鋼環境ソリューションに商号を変更しました。

建設機械関連事業 23社：コベルコ建機(株)他

不動産関連事業 11社：コベルコ開発(株)他

その他の事業 25社：(株)コベルコ科研、神鋼機器工業(株)、コウベスチールUSAホールディングス社他

なお、持分法適用会社は50社であります。

財務諸表等(単独)

貸借対照表の要旨(平成15年9月30日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	百万円		百万円
(資産の部)	(1,399,336)	(負債の部)	(1,069,454)
流動資産	393,742	流動負債	502,891
現金及び預金	39,924	支払手形	7,383
受取手形	2,670	買掛金	150,634
売掛金	127,505	短期借入金	182,231
棚卸資産	153,488	一年内償還社債	71,000
その他	70,852	その他	91,642
貸倒引当金	699	固定負債	566,563
固定資産	1,005,594	社債	259,800
有形固定資産	680,223	長期借入金	196,336
建物及び構築物	210,345	その他	110,427
機械及び装置	280,699	(資本の部)	(329,881)
その他	189,178	資本金	218,163
無形固定資産	10,083	資本剰余金	67,911
投資その他の資産	315,287	資本準備金	67,911
関係会社株式	123,341	利益剰余金	33,558
その他	205,690	中間未処分利益	33,558
貸倒引当金	13,744	その他有価証券評価差額金	10,331
		自己株式	84
資産合計	1,399,336	負債及び資本合計	1,399,336

(金額は百万円未満の端数を切り捨てております。)

- (注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 1,457,133百万円
2. 1株当たり中間純利益 1円74銭

損益計算書の要旨(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)

科 目	金 額
	百万円
売上高	387,053
売上原価	329,319
販売費及び一般管理費	31,455
営業利益	26,278
営業外収益	20,780
営業外費用	38,879
経常利益	8,180
特別利益	8,970
特別損失	9,303
税引前中間純利益	7,846
法人税、住民税及び事業税	1,898(加算)
法人税等調整額	4,549(減算)
中間純利益	5,195
前期繰越損失	—
利益準備金取崩額	28,363
中間未処分利益	33,558

(金額は百万円未満の端数を切り捨てております。)

業績の推移

(単位：億円)

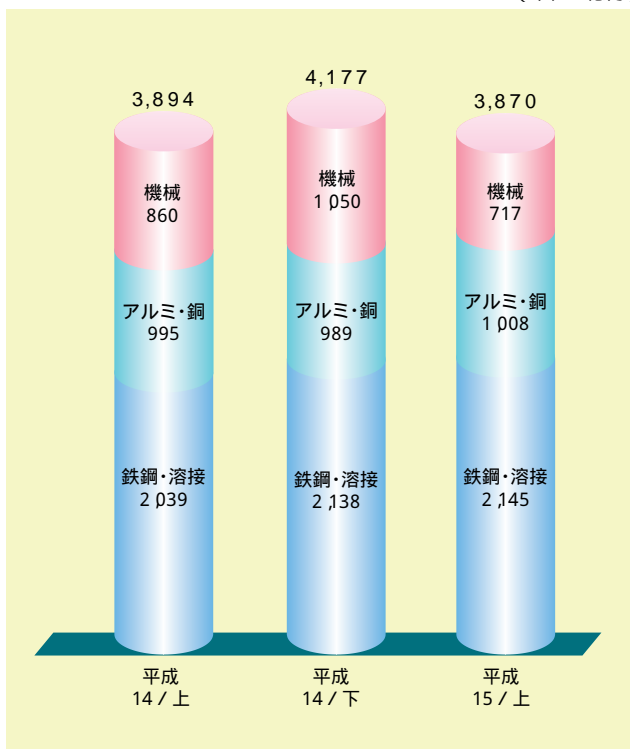
区 分	平成 14 / 上	平成 14 / 下	平成 15 / 上
売 上 高	3,894	4,177	3,870
経 常 利 益	74	128	81
当 期 純 利 益	45	93	51
1株当たり当期純利益	1円56銭	3円20銭	1円74銭
総 資 産	14,416	14,191	13,993
純 資 産	3,158	3,132	3,298

(注)1. 印は損失を示しております。

2. 1株当たり当期純利益は、期中平均株式数に基づき算出しております。

部門別売上高の推移

(単位：億円)



取締役および監査役、執行役員

(平成15年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)

水越浩士

本社

取締役副社長(代表取締役)

森脇亞人

常務取締役

松谷高志

執行役員

吉田達樹

専務取締役

佐藤廣士

執行役員

平野重蔵

執行役員

大越年祝

常務取締役

浅岡徹

執行役員

宮崎純

〔鉄鋼部門〕

取締役副社長(代表取締役)

犬伏恭夫

常務執行役員

中園政明

執行役員

大西功一

専務執行役員

木村敏夫

常務執行役員

小山敬治

執行役員

中村秀樹

常務執行役員

池田辰雄

執行役員

原三郎

執行役員

村瀬敬一

常務執行役員

田中毅

執行役員

賀屋知行

溶接カンパニー

専務取締役

島田博夫

常務執行役員

藍田勲

アルミ・銅カンパニー

取締役副社長(代表取締役)

矢野信治

常務執行役員

大城英夫

執行役員

下村良介

常務執行役員

中山裕之

執行役員

高橋徹

都市環境・エンジニアリングカンパニー

専務取締役

奥島敢

常務執行役員

青木克規

執行役員

神田泰男

機械カンパニー

専務取締役

小谷重遠

執行役員

重河和夫

不動産カンパニー

専務取締役

丹野宜弘

(注) 印は、鉄鋼部門長および各カンパニーのプレジデントであります。

監査役(常勤)

横山博克

監査役(非常勤)

緒方重威

監査役(非常勤)

金子崇輔

監査役(常勤)

松本勝行

監査役(非常勤)

師田卓

株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会・利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

(その他必要あるときはあらかじめ公告します。)

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

(郵便物送付先) 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

(および電話照会先) 三菱信託銀行株式会社 証券代行部

☎0120-707-696(フリーダイヤル)〒171-8508

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求および株式の相続手続に必要な届出用紙のご請求は、0120-86-4490

(フリーダイヤル:24時間自動音声応答サービス)でも承ります。

公告掲載新聞 日本経済新聞・神戸新聞

会社の概要

(平成15年9月30日現在)

創 立	明治38年9月
資 本 金	2,181億6,324万8,065円
発行済株式総数	29億7,454万9,861株

(注)平成15年12月1日付、神鋼アルミ缶材株式会社(旧商号:神鋼アルコアアルミ株式会社)との合併により新株式を152万433株発行し、発行済株式総数は29億7,607万294株となりました。

株 主 数	257,200名
従 業 員 数	8,781名

事業所

神戸本社	神戸市中央区脇浜町2丁目10番26号 ☎078(261)5111(大代表) ㊦651-8585
東京本社	東京都品川区北品川5丁目9番12号 ☎03(5739)6000(大代表) ㊦141-8688
支 社	大阪・名古屋
支 店	北海道(札幌市)・東北(仙台市)・新潟・北陸(富山市)・ 四国(高松市)・中国(広島市)・九州(福岡市)・沖縄(那覇市)
海外事務所	ニューヨーク・デトロイト・シンガポール・北京 (注)「海外事務所」には現地法人を含んでおります。
研 究 所	神戸
製鉄所・工場	鉄鋼・溶接部門 加古川・神戸・高砂・ 藤沢・茨木・西条・福知山 アルミ・銅部門 真岡・長府・秦野・大安 機械部門 高砂・播磨

主要営業品目

鉄鋼・溶接

鋼材/条鋼 普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼
鋼板 厚板、中板、薄板(熱延・冷延・表面処理)
鋼片

加工製品・銑鉄他/ 鑄鍛鋼品(舶用部品・電機部品・産業機械部品等)、チタンおよびチタン合金、鉄粉および粉末製品、建材、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品
溶接材料他/ 各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス、溶接口ポット、溶接電源、各種溶接口ポットシステム

アルミ・銅

アルミ圧延品/ 飲料缶用アルミ板、アルミ箔用板材、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板
銅圧延品/ 空調用銅管、電子材料用伸銅板条、自動車端子用銅板条
アルミ鑄鍛造品他/ アルミニウム合金およびマグネシウム合金鑄鍛造品(航空機用部品・自動車用部品等)、アルミ加工品(自動車用部品等)

機械他

産業機械/ 各種プラント(製鉄・非鉄・ペレタイジング・セメント・石油化学等)、化学機械、原子力関連機器、土木工事、橋梁、新交通システム、下水処理、ごみ焼却炉、高分子加工機械、金属加工機械、鉱山・砕石機械、圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ
不動産他/ 不動産販売・賃貸、ビルマネジメント、地域・都市開発、エレクトロニクス関連機器、情報通信システム、特殊合金他新材料等